学長からのメッセージ
新入生の皆様へ

ご入学を心からお祝い申し上げます。新入生の皆様をこの大学にお迎えできましたことを嬉しく思います。これから皆様と共にお茶の水女子大学をいっそう豊かな学びの場にして行きたいと思っています。

昨年３月の東日本の大震災以来、多くの人々が科学の進歩や技術の発展の仕方について、そして日々の生活や社会のあり方について改めて問い始めました。私たちは、日常性が如何に脆く、同時にかけがえのないものであるか、そして、生活の利便性が自然に対して如何に大きな負荷をかけているかを再認識させられています。

このようなとき大学が果たすべき役割はますます多岐にわたり、また大学で学ぶこともこれまで以上に多様になっています。知識を確実に習得することは学生として当然の課題ですが、その際に、学問の対象を根本から問う姿勢が不可欠です。

今年２月13日、東京大学からお茶の水女子大学に「ニュートンのリンゴの木」の苗木が贈られました。その記念植樹式典では、東京大学の濱田総長から、ニュートンにとってのリンゴのように身近な現象から新たな発見が生まれることを期待する、というご挨拶をいただきました。

ニュートンのリンゴの木の苗

この一本のリンゴの木は、学問全体を描く比喩としてデカルトが描いた「学問の木」を想起させます。リンゴという果実は実用的な学に相当し、木の幹は、物事の原理を扱う学問、つまり物理学や論理学、数学、あるいは基礎科学に当たります。そしてこれらの学問はいずれも何らかの形で、木の根、つまり本質を問うことに源をもっています。

そして大学では、これら全体的な学問体系を念頭においた教育が行われています。なぜなら自然も人も、それぞれが他との関わりの内で存在しているからであり、それらはまた時間的にも、過去、現在、未来という連関の中にあるからです。

今、新たに学の世界へと歩みを進められた新入生の皆様には、それぞれに問題意識をもち、将来の夢を追いながら、学ぶことの深さと楽しさを味わっていただきたいと思います。

お茶の水女子大学の学生には、ものごとを根本から問い、未来を見定めて的確に判断する力を身につけてほしいと考え、そのためのカリキュラムを準備しています。それらをどのように活用し自らの将来のために役立てることができるかは、学生１人ひとりの学ぶ意欲と熱意に依存します。

学生の皆様が、個人として自立し、問題意識をもって学びの日々を過ごし、豊かな未来を切り開く力をこの大学で習得し、そして社会人として活躍なさることを心から期待しています。

2012年　春
学長　羽入 佐和子

学長からのメッセージ
新入生の皆様へ